

世界メンタルヘルスデー 映画上映会プロジェクト 2026

かどま
in

世界メンタルヘルスデー
～つながる、どこでも、だれにでも～

映画をみて
語り合い
しましょう!

#せかメン
映画



せかメン映画
公式サイト
最新情報は
こちら▶



人はつながりで
生かされる

知っているようで知らない
震災後のメンタルヘルス

開催日時

9/27 (日)
13:30-17:00
上映開始 14:00～

会場

門真市立文化創造図書館
**KADOMADO
ROOM 5**
門真市幸福町11-50

料金

参加無料

お申込み方法

定員60名 程度

QRコードよりお申し込みお願いいたします。



※車椅子スペースもご準備しています。

お問い合わせ

主催 トキノ株式会社
訪問看護ステーションみのり
生活介護ほにいず / 相談支援事業所みのり
問い合わせ：メール minor-01@tokino.jp

上映作品

『生きて、
生きて、
生きろ。』



東日本大震災後の福島。

今もなお続く
見えにくい心の傷。

その現実を見つめながら、
「生きる」とは何かを問いかける
ドキュメンタリー映画。

『生きて、生きて、生きろ。』

制作・監督・撮影：島田陽磨 撮影：熊谷裕達／前川光生／西田豊 編集：前島健治 音楽：渡邊崇 助監督・撮影・宣伝美術：鈴木響 オンラインエディター：中田勇一郎 効果・整音：高木創
協力：医療法人社団 メンタルクリニックなごみ NPO法人 相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会 相馬広域こころのケアセンター なごみ 沖縄医療生活協同組合 中部協同病院
2024年／日本／113分／カラー／ドキュメンタリー ©Nihon Denpa News Co., LTD. 制作・配給：日本電波ニュース社 公式サイト <https://ikiro.ndn-news.co.jp/>

世界メンタルヘルスデー（World Mental Health Day）とは？

1992年に世界精神保健連盟によって、「こころの健康の大切さを知ってもらう」「精神疾患に対する偏見や差別（スティグマ）をなくす」「必要な人が早期に相談・治療・支援につながれるようにする」「世界中でメンタルヘルス政策や支援体制を充実させる」ことなどを目的に創設されました。毎年10月10日に実施され、メンタルヘルス（こころの健康）への理解を深め、偏見をなくし、必要な人が支援につながれる社会を目指す国際的な啓発デーです。

主催 トキノ株式会社について

トキノ株式会社は、2013年に大阪府門真市で、精神科訪問看護を専門とする訪問看護ステーションとしてスタートしました。

「すべての人が自分らしく」という理念のもと、症状や特性と付き合いながら、自分らしい生活を組み立てていけるよう、一人ひとりに寄り添った支援を行っています。看護師だけでなく、作業療法士や精神保健福祉士（ソーシャルワーカー）など多職種が連携し、ご本人への支援はもちろん、ご家族からの相談にも対応しています。医療・福祉・地域とつながりながら、一人ひとりの「その人らしい暮らし」を支えています。

私たちがこの上映会を開催する理由

日本では、生涯のうちに約5人に1人が何らかの精神疾患を経験するといわれており、誰もがこころの不調と向き合う可能性があります。

一方で、精神疾患やメンタルヘルスに対する偏見や誤解は今なお残っており、相談することをためらったり、周囲に理解されず孤立したりする方も少なくありません。

私たちは、精神科訪問看護を通して、こうした現状を日々目の当たりにしています。だからこそ、医療や福祉の中だけでなく、地域の皆さまと一緒に「こころの健康」について考え、語り合う機会が必要だと考えています。

この上映会が、こころの健康について理解を深め、お互いを支え合える地域づくりにつながることを願っています。



代表 進あすか



訪問看護（末広町）



生活介護ほにいず（打越町）



一步出てみたい！
そんな気持ちを
応援します！
送迎あります。

詳細はこちらから
ご覧いただけます。

共催団体について

世界メンタルヘルスデー映画上映会プロジェクト（#せかメン映画）は、毎年10月10日の世界メンタルヘルスデーに合わせて、日本全国で映画上映会と対話の場を開催し、メンタルヘルスの普及啓発を行う全国規模のソーシャルアクションです。

2022年からスタートし、当事者や家族、医療・福祉に携わる専門職、教育関係者、地域活動を行う人など、メンタルヘルスの普及啓発に賛同する全国の有志メンバーによって運営されています。